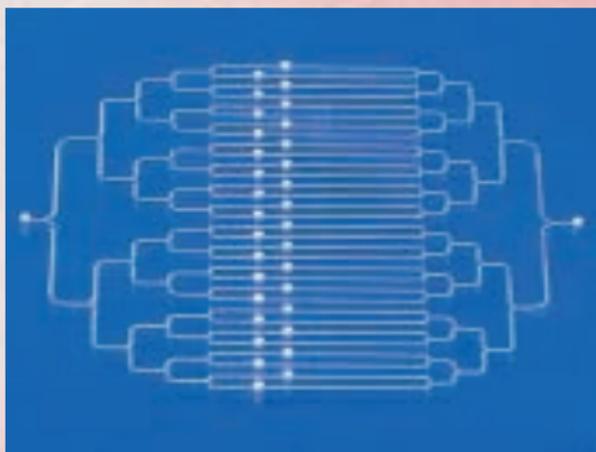


株主の皆様へ

第139期 中間報告書

平成16年4月1日～平成16年9月30日



ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第139期上半期（平成16年4月1日から平成16年9月30日まで）を経過いたしましたので、ここに当上半期の営業の概況をご報告申し上げます。



平成16年12月9日

日本板硝子株式会社

代表取締役
社長執行役員

藤本勝司

営業の概況

当上半期における国内経済は、総じて堅調に回復を続けているものの、国際情勢の不安定化を背景とした原油価格の高騰や素材価格の上昇などが今後の経済に与える影響が懸念されます。

一方、当社グループを取り巻く市場環境につきましては、建築分野では、新設住宅着工戸数、非居住用建築着工床面積とも前年同期比微増で推移し、自動車分野におきましても国内総生産台数は前年同期比微増で推移しております。情報電子分野では、全世界のパソコン出荷台数、携帯電話生産台数はともに増加し、前年同期を上回りました。

このような状況の下、当社グループは中期経営計画「ACT21」により安定した収益体制の構築と高収益・高効率経営の実現を目指し、またオンリーワン商品の拡大に努め、総力を挙げて収益改善に取り組んでまいりました。その結果、当社グループの当中間期の業績は以下のとおりとなりました。（括弧内の数字は前年同期比を示しております。）

連結売上高	1,296億63百万円（1.8%減）
連結営業利益	53億14百万円（142.9%増）
連結経常利益	58億24百万円（－）
連結中間純利益	39億17百万円（－）

特別損失、特別利益につきましては、関係会

社株式譲渡損など合計12億50百万円の特別損失を計上する一方、投資有価証券売却益など合計18億23百万円の特別利益を計上いたしました。

当期の中間配当金につきましては、業績回復の進捗など諸般の事情を勘案し、1株につき3円とさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

部門別の状況は次のとおりであります。

<硝子・建材部門>

建築用ガラスやサッシなど建築材料事業では、国内全体需要が概ね堅調に推移する中で、複層ガラスや防犯ガラスなどの高機能ガラスの拡販が寄与いたしました。サッシ介入建材等の減少により、国内売上高は前年同期と比べ、ほぼ横ばいとなりました。海外では、マレーシア、ベトナムの市況は安定化の方向にありますが、天津フロートガラスからの撤退により、売上高は前年同期を下回りました。自動車用ガラス事業では、売上高は、納入数量の減少などにより、前年同期をやや下回りました。この結果、硝子・建材部門全体の売上高は前年同期比3.7%減の783億99百万円となりました。

<情報電子部門>

情報通信デバイス事業の売上高は、光通信用レンズの需要が依然低調であるものの、マルチ

ファンクションプリンターを中心とした事務機器用光部品が増加し、前年同期を上回りました。ディスプレイ事業の売上高は、携帯電話向けをはじめとする液晶関連製品の需要好調により前年同期を上回りました。しかしながら前期に譲渡したガラス磁気ディスク事業の影響により、情報電子部門全体の売上高は、前年同期比9.0%減の238億60百万円となりました。

<ガラス繊維部門>

タイミングベルト用ゴムコード、バッテリー用セパレータ、エアフィルタ、フレーク等の特殊ガラス繊維製品がいずれも順調に推移し、ガラス繊維部門の売上高は、前年同期比5.2%増の191億31百万円となりました。

<その他部門>

当社連結子会社であったイソライト工業株式会社の株式譲渡により、同社が当期第2四半期より当社連結対象からはずれましたが、エンジニアリング部門その他の売上が増加し、その他部門の売上高は、前年同期比32.4%増の82億71百万円となりました。

下半期の見通しにつきましては、全般的には景気回復が続くものと考えられますが、原油価格及び世界経済の動向など、多くの懸念すべき要因が存在しております。

当社関連分野では、国内の建築・自動車分野の需要は前期並に推移するものと予想されますが、情報電子分野では液晶をはじめとするIT関連製品の需給状況が不透明となりつつあります。

当社グループといたしましては、中期経営計画「ACT21」の最終年度にあたり、引き続き収益構造の改善に注力するとともに、競争力のある商品の拡大、拡販に努めてまいります。

部門別の取組は次のとおりであります。

<硝子・建材部門>

部門全体では、引き続き徹底したコスト削減と高機能商品の開発・拡販に努力いたします。建築用ガラス事業では複層ガラス、真空ガラス、合わせガラス及び光触媒効果を活かしたセルフクリーニングガラス等、高機能商品の拡販に注力いたします。また自動車用ガラス事業では、快適性を追求した高付加価値商品をより広く、より多く提供していきたいと考えております。

<情報電子部門>

部門全体では、新商品・新技術の市場情報入手や開発体制の整備に積極的に取り組んでまいります。今後の伸びが期待できるディスプレイ事業につきましては、新組成のプラズマ・ディスプレイ用ガラスや中小型液晶用ガラスの拡販に注力いたします。光関連事業は、マルチファ

ンクシヨンカラープリンター市場へ引き続き積極的に事業展開を図ってまいります。通信用レンズは、需要の回復に備え、高付加価値品の開発、商品化を着実に進めてまいります。

<ガラス繊維部門>

光輝性ガラスフレイクやクリーンルーム用エアフィルタなど特殊ガラス繊維で「オンリーワン、ナンバーワン」戦略の下、新商品開発のスピードアップやグローバル展開による拡大発展を目指してまいります。

研究開発につきましては、既存分野における独自の技術及び商品の開発に注力するとともに、「ナノガラス技術プロジェクト」などに参加し、既存分野以外のバイオや環境の新分野においても新商品の開発を進めてまいります。

また、環境と調和した企業活動として省エネルギー、リサイクルはもとより環境負荷を低減する製品開発など地球環境保全に向け、さらなる努力をしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(注)この中間報告書では、百万円単位の金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

平成16年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額
資 産 の 部	430,352
流 動 資 産	167,942
現 金 及 び 預 金	61,810
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	58,973
棚 卸 資 産	38,080
繰 延 税 金 資 産	1,472
そ の 他 の 流 動 資 産	8,456
貸 倒 引 当 金	△ 851
固 定 資 産	262,409
有 形 固 定 資 産	120,653
建 物 及 び 構 築 物	43,029
機 械 装 置 及 び 車 輛 運 搬 具	39,131
工 具 器 具 備 品	4,169
土 地	26,249
建 設 仮 勘 定	8,073
無 形 固 定 資 産	4,096
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	4,096
投 資 そ の 他 の 資 産	137,660
投 資 有 価 証 券	130,948
長 期 貸 付 金	871
長 期 前 払 費 用	1,743
繰 延 税 金 資 産	779
投 資 そ の 他 の 資 産	4,053
貸 倒 引 当 金	△ 735
合 計	430,352

(単位：百万円)

科 目	金 額
負債の部	225,480
流動負債	113,096
支払手形及び買掛金	37,316
短期借入金	42,976
一年内償還予定社債	9,600
未払金	3,776
未払法人税等	3,087
未払消費税等	396
未払費用	5,443
預り金	4,421
賞与引当金	2,461
繰延税金負債	1,389
その他の流動負債	2,226
固定負債	112,384
社債	43,000
長期借入金	33,583
退職給付引当金	12,999
役員退職慰労引当金	781
修繕引当金	8,965
連結調整勘定	115
繰延税金負債	11,522
その他の固定負債	1,415
少数株主持分	2,875
資本の部	201,996
資本金	41,060
資本剰余金	50,373
利益剰余金	92,993
株式等評価差額金	25,477
為替換算調整勘定	△ 7,707
自己株式	△ 200
合 計	430,352

連結損益計算書

自 平成16年 4月 1日
至 平成16年 9月30日

経常損益の部	
営業損益の部	百万円
営業収益	129,663
売上高	129,663
営業費用	124,349
売上原価	94,589
販売費及び一般管理費	29,759
営業利益	5,314
営業外損益の部	
営業外収益	4,026
受取利息及び配当金	938
持分法投資利益	2,366
雑収益	722
営業外費用	3,516
支払利息	1,064
雑損失	2,452
経常利益	5,824
特別損益の部	
特別利益	1,823
固定資産売却益	512
投資有価証券売却益	1,310
特別損失	1,250
固定資産除却損	269
投資有価証券評価損	10
関係会社株式譲渡損	969
税金等調整前中間純利益	6,397
法人税、住民税及び事業税	2,660
法人税等調整額	△ 402
少数株主利益	222
中間純利益	3,917

連結貸借対照表及び連結損益計算書の注記事項

1. 連結貸借対照表の注記

- (1)有形固定資産の減価償却累計額……………213,459百万円
- (2)担保に供している資産
 - 有形固定資産……………7,619百万円
- (3)保証債務……………2,503百万円
- (4)債務履行引受契約に係る偶発債務……………10,000百万円

2. 連結損益計算書の注記

- (1)1株当たりの中間純利益……………8円84銭

(ご参考)

貸借対照表 (単体)

平成16年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額
資 産 の 部	366,101
流 動 資 産	126,033
現 金 及 び 預 金	43,072
受 取 手 形	4,200
売 掛 金	44,578
製 品 及 び 商 品	12,431
仕 掛 品	5,421
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	4,385
繰 延 税 金 資 産	1,883
そ の 他 の 流 動 資 産	12,658
貸 倒 引 当 金	△ 2,598
固 定 資 産	240,068
有 形 固 定 資 産	76,123
建 物	28,025
構 築 物	2,066
機 械 装 置	22,059
車 輜 運 搬 具	49
工 具 器 具 備 品	2,953
土 地	13,017
建 設 仮 勘 定	7,952
無 形 固 定 資 産	2,312
施 設 利 用 権 等	2,312
投 資 そ の 他 の 資 産	161,632
投 資 有 価 証 券	79,269
子 会 社 株 式	76,504
長 期 貸 付 金	3,259
長 期 前 払 費 用	1,236
そ の 他 の 投 資 金	1,551
貸 倒 引 当 金	△ 190
合 計	366,101

(単位：百万円)

科 目	金 額
負債の部	181,432
流動負債	83,314
買掛金	29,980
短期借入金	25,451
一年内償還予定社債	9,600
未払金	3,157
未払法人税等	876
未払費用	5,204
預り金	7,265
賞与引当金	1,256
その他の流動負債	521
固定負債	98,118
社債	43,000
長期借入金	22,922
退職給付引当金	9,510
役員退職慰労引当金	490
修繕引当金	8,949
繰延税金負債	12,764
その他の固定負債	481
資本の部	184,668
資本金	41,060
資本剰余金	49,557
資本準備金	49,556
その他資本剰余金	1
自己株式処分差益	1
利益剰余金	68,944
利益準備金	6,376
任意積立金	49,378
特別償却準備金	11
固定資産圧縮積立金	4,390
特別積立金	44,977
中間未処分利益	13,188
株式等評価差額金	25,306
自己株式	△ 200
合 計	366,101

(ご参考)

損益計算書 (単体)

自 平成16年4月1日
至 平成16年9月30日

経常損益の部		百万円
営業損益の部		
営業収益		86,674
売上高		86,674
営業費用		84,673
売上原価		68,752
販売費及び一般管理費		15,921
営業利益		2,000
営業外損益の部		
営業外収益		2,689
受取利息及び配当金		1,635
雑収益		1,054
営業外費用		3,136
支払利息		751
雑損失		2,384
経常利益		1,554
特別損益の部		
特別利益		1,327
固定資産売却益		32
投資有価証券売却益		678
関係会社株式譲渡益		616
特別損失		384
固定資産除却損		219
投資有価証券評価損		10
関係会社整理損		154
税引前中間純利益		2,497
法人税、住民税及び事業税		849
法人税等調整額		△321
中間純利益		1,969
前期繰越利益		11,219
中間未処分利益		13,188

会社の概要

平成16年9月30日現在

設立	大正7年11月22日
資本金	41,060,961,370円
発行済株式総数	443,946,452株
1単元の株式の数	1,000株
株主数	52,064名

主要な営業品目(連結)

(硝子・建材部門)

フロート板ガラス	網入線入磨板ガラス
熱線吸収板ガラス	熱線反射ガラス
高性能熱線反射ガラス	強化ガラス
倍強度ガラス	合わせガラス
複層ガラス	真空ガラス
防火ガラス	型板ガラス
網入線入型板ガラス	鏡
装飾ガラス	サッシ及び建材
店装材	音響・防音機器
GRC製品等	

(情報電子部門)

光製品 (セルフオックレンズアレイ、セル フォックマイクロレンズ、光部品等)	
ファインガラス製品 (超薄板、透明電導ガ ラス等)	
産業用ガラス製品	LCD製品等

(ガラス繊維部門)

特殊ガラス繊維製品 (ゴムコード、ガラス フレック、メタシャイン、鉛蓄電池用セ パレータ、エアフィルタ等)	
---	--

(その他部門)

設備エンジニアリング	試験分析等
------------	-------

TOPICS

トピックス



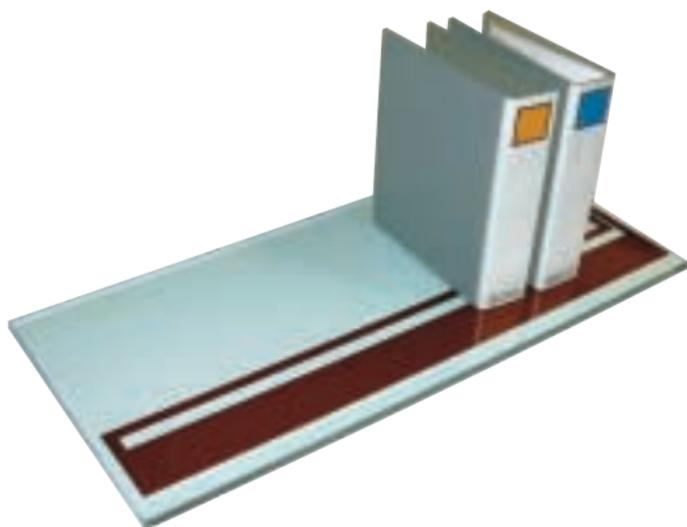
ベトナムフロートガラス社



マレーシアンシートガラス社

アジアでのフロート板ガラス 製造設備の増強

当社は、アジアでの旺盛な需要に対応するため、ベトナムに当社としては2番目のフロート板ガラスの製造会社を設立することとしました。ホーチミン市近郊に工場を建設し、2006年末を目処に生産を開始する予定です。また、マレーシアにおいては、現在休止中のジョホールバル工場の1窯を2005年4月を目処に再稼働する予定です。これらの能力増強により、アジアでの事業拡大と当社グループ内での生産分担による効率化を図っていきたいと考えています。



ガラス製ICタグ、アンテナの開発

当社は、今後大きな成長が期待できるRFID（無線認証）分野において、凸版印刷（株）、（株）日立製作所と共同でガラス製のICタグ及びリーダアンテナを開発しました。このタグ（付け札）を物品に装着すると、その物品に触れなくてもその位置を検知でき、棚卸し作業が不要になります。また、タグはガラス製のため、紫外線や水等に接する環境でも使用可能です。陳列ケース内の商品管理、製品一品ごとの製造管理、図書館での書籍管理、施設の入退室管理などの用途への使用が考えられます。

役員

平成16年11月19日現在

取締役及び監査役

代表取締役会長	出原洋三
代表取締役副会長	阿部友昭
代表取締役	藤本勝司
取締役	永井昌邦
取締役	仁田昌敏
取締役	近倉藤内憲和
常勤監査役	一田戸清彦
常勤監査役	田内ヶ崎中瞳
監査役	大井尚
監査役	

執行役員

社長執行役員	藤本勝司
専務執行役員	永井昌一
専務執行役員	仁泉近井
常務執行役員	近井藤上
常務執行役員	堀井口
執行役員	梅佐村
執行役員	佐村野上
執行役員	久本千直
執行役員	轟船本木
執行役員	伊藤木藤
執行役員	加本藤庄
執行役員	小好誠一郎
執行役員	吉博義治
執行役員	岡村昭

株主メモ

決 算 期
毎年 3月31日

定 時 株 主 総 会
毎年 6月

株主確定基準日
定時株主総会・利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
そのほか必要あるときはあらかじめ
公告した一定の日

名義書換代理人
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所
住友信託銀行株式会社
証券代行部
東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

(郵便物送付・電話お問合せ先)

住友信託銀行株式会社
証券代行部
東京都府中市日鋼町1番10
〒183-8701

(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
(その他のご照会) ☎ 0120-176-417

同 取 次 所
住友信託銀行株式会社
本店及び全国各支店

公 告 の 方 法
日本経済新聞に掲載する。
ただし、商法特例法第16条第3項に
定める貸借対照表及び損益計算書に
係る情報は、<http://www.nsg.co.jp>
において提供する。

会 計 監 査 人
新日本監査法人

表紙の写真：マイクロ化学チップ

当社のガラス加工技術をベースとして、ガラス基板上に幅数十ミクロンの流路を作製したチップ製品です。従来の各種化学実験操作をナノレベルにまで小型化することが可能となり、各方面で注目を浴びています。